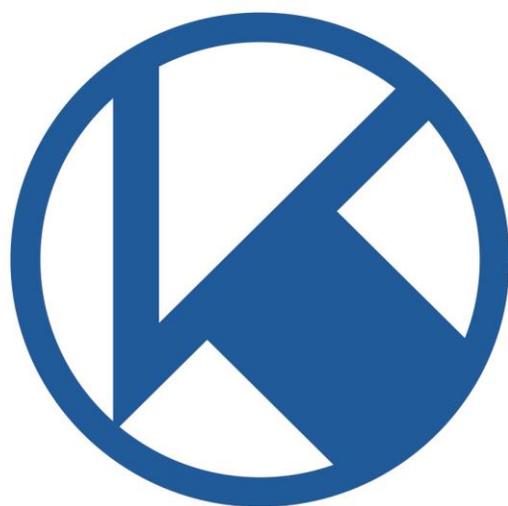


# 2023年（令和5年）度 事業報告書



学校法人こおりやま東都学園

# CONTENTS

1. 法人の概要	3～4
2. 入学定員及び学生数	5
3. 役員及び評議員ならびに教職員の概要	6～7
4. 校地及び校舎	7
5. 事業の概要	8～13
5-1 進級・卒業・留年及び退学者の状況	(9)
5-2 学校説明会等参加者	(9)
5-3 学生募集状況	(10)
5-4 キャリア就職支援	(10～11)
5-5 国家試験の状況	(12)
5-6 奨学金・修学資金受給状況	(12～13)
6. 各学科の事業概要	14～26
6-1 メディカルスポーツ柔道整復学科	(14～15)
6-2 作業療法学科	(15～18)
6-3 理学療法学科	(18～20)
6-4 介護福祉学科	(20～23)
6-5 こども未来学科	(23～24)
6-6 日本語学科	(24～25)
6-7 国際日本語学科	(25～26)
7. 附帯教育事業	26～32
7-1 キッズ東都学園保育園	(26～27)
7-2 キース鍼灸整骨院	(27～28)
7-3 介護職員初任者研修科及び介護実務者研修科	(28～29)
7-4 わんぱく東都学園放課後等デイサービス事業所	(29～30)
7-5 にじいろ東都学園ユーススクール	(31～32)
8. 財務の概要	32～38
8-別表1 貸借対照表	(33～34)
8-別表2 事業活動収支計算書類	(35～36)
8-別表3 財産目録	(37)
8-別表4 監査報告書	(38)

# 2023年（令和5年）度事業報告書

## 1. 法人の概要

学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校は、教育基本法及び学校教育法に従い、平成6年4月東都国際ビジネス専門学校の前身を開校後、2校目の専門学校として平成10年4月に同校の前身（作業療法学科・理学療法学科・介護福祉学科）を開校し、平成15年3月より現学園名並びに現学校名に改称した。一貫して職業教育を行い、医療・福祉分野における専門技術者を養成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域社会・地域文化の発展への貢献をめざしている。また、国内外の大学及び専門学校との学術交流協定を締結し、積極的な学術交流を図っている。

平成16年4月には国際交流センターを開設し、これまでに海外の学術交流協定校との人的交流や国際的に活躍している著名人の講演会などを行なっている。

平成17年4月、柔道整復学科（現：メディカルスポーツ柔道整復学科）を開設し、東洋医学の代表的領域である柔道整復学を学び、国家資格である柔道整復師の養成を開始し、併せて「キース接骨院（現：キース鍼灸接骨院）」を開院のうへ、メディカルスポーツ柔道整復学科に係る臨床実習施設として機能しながら地域住民の健康維持・増進に寄与している。

平成19年4月、応用理学療法学科を開設し、入学資格の1つに満22歳以上と定め、キャリアチェンジ及びキャリアアップとして理学療法士をめざす方々の受け皿として3年課程とした。（平成27年より募集停止としている）

平成27年4月、こども未来学科を開設し、医療福祉分野の専門学校である特長を活かしながら医療保育及び障がい児保育にも長けた保育士を養成している。

平成29年3月には内閣府認定企業主導型保育事業認定保育施設「キッズ東都学園保育所」収容定員23名を設置し、従業員枠及び地域枠を設け保育事業を展開のうへ、待機児童の解消に向け地域社会において大きな貢献を果たしてきた。その後、内閣府における同審査委託先である公益財団法人児童育成協会に対する不信感が募ったことから、令和5年4月より郡山市認可保育施設「キッズ東都学園保育園」として、小規模保育施設（0～2歳児を対象とした定員19名ほどの小さな施設）のきめ細やかな保育ができることなどのメリットより、子どもの個性や成長段階に合わせ安心して成長できる環境を提供するに至っている。

令和元年10月、新たに文化・教養課程を設け、日本語を習得のうへ、主に介護人材に就く外国人留学生の受け皿として、日本語学科1年6箇月及び2年コースを設置し、グローバルな視点を持ちながら、さらなる地域貢献と新たな教育活動を展開している。

令和2年11月には郡山市指定の特定障害児通所支援事業所「わんぱく東都学園放課後等デイサービス事業所」を設置し、地域の就学障害児の受入れとして事業展開を行っている。

令和3年4月には介護福祉士実務者研修所（現：介護福祉士初任者実務者研修所）を開設し、介護福祉士国家試験の実務経験ルートによる国家試験受験資格を求めるニーズに応えている。さらに、令和5年4月には介護職員初任者研修を新たに開講し、こども未来学科及び国際日本語学科の本学生を中心に研修を展開している。

令和5年4月1日、国際日本語学科を開設し、外国人留学生がさらなる日本語力の向上を図るとともに、日本語教師をめざす学生が時間・場所を共にしながら学ぶことで相互にメリットのあるカリキュラムを展開している。

令和5年10月10日には「にじいろ東都学園ユーススクール」を設置し、あらゆる子どもたちの居場所づくりの場、いわばフリースクールを第2校舎に設け、本校の多職種教員集団としての各

種資格や特技特長をもつ教職員が必要に応じて利用児とかかわることにより一人ひとりの能力を引出している。

令和2年1月に最初の感染者が確認されて以来、たった4箇月で46都道府県において合計15,000人余の感染者、700人余の死亡者が確認されたコロナ禍時代を脱し、人との直接的な交流が戻ることで、本校の入学式及び卒業式並びに卒業記念パーティーで制限なく保護者や関係者が参列することができている。

## 2. 入学定員及び学生数

(令和6年5月1日現在)

学校名	学 科 名	入学年度	修業年限 (年)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在学者数 (人)
郡山健康科学専門学校	介護福祉学科	令和5年度	2	33	66	44
		令和6年度	2	33		
	作業療法学科	令和3年度	4	20	92	82
		令和4年度	4	24		
		令和5年度	4	24		
		令和6年度	4	24		
	理学療法学科	令和3年度	4	60	258	207
		令和4年度	4	66		
		令和5年度	4	66		
		令和6年度	4	66		
	メディカルスポーツ柔道整復学科	令和4年度	3	24	72	66
令和5年度		3	24			
令和6年度		3	24			
応用理学療法学科	平成26年度	3	(H29年度から募集停止中)			
	平成27年度	3				
	平成28年度	3				
こども未来学科	令和5年度	2	33	66	30	
	令和6年度	2	33			
日本語学科(1.5年課程)	令和5年度	1.5	20	50	0	
	令和6年度	1.5	30			
日本語学科(2年課程)	令和5年度	2	20	50	34	
	令和6年度	2	30			
国際日本語学科	令和5年度	1	10	10	14	
	令和6年度	1	10			
				合 計	664	477
東都国際ビジネス専門学校	休校中					

### 3. 役員及び評議員並びに教職員の概要（令和6年5月1日現在）

#### 1) 役員 8人（理事6人、監事2人）

理事長	大本 研二	監事	谷口 英太郎
理事（学校長）	渡辺 信英	監事	谷本 佳隆
理事	橋本 充		
理事	皆藤 宗郎		
理事	小林 麻衣		
理事	小林 優衣		

#### 2) 評議員 13人

評議員	下野 江之介	評議員	千葉 正久
評議員	橋本 充	評議員	窪木 守
評議員	佐藤 英司	評議員	永山 千夏
評議員	小林 博美	評議員	小尾 勉
評議員	田之室 匡	評議員	高野 真一
評議員	荒木 芳一	評議員	川崎 萌絵
評議員	羽川 孝幸		

#### 3) 教職員の概要（令和6年5月1日現在）

##### (1) 郡山健康科学専門学校

学校長	1人
専任教員数	39人
（内訳）理学療法学科	9人
作業療法学科	6人
メディカルスポーツ柔道整復学科	8人
こども未来学科	6人
介護福祉学科	5人
日本語学科	2人※別途6月1日に1名採用予定、7月1日に1名採用予定
国際日本語学科	3人
専任職員数	3人
非常勤職員数	7人
嘱託職員	2人
派遣職員	2人

##### (2) キッズ東都学園保育園

園長（兼務）	1人
管理者補佐	2人
主任	2人
常勤保育士	4人
非常勤保育士	3人
兼任職員	1人

##### (3) キース鍼灸接骨院

院長	1人
管理者補佐	2人
兼任職員	1人

(4) わんぱく東都学園放課後等デイサービス

管理者	1人
管理者補佐	2人
児発管	1人
主任	1人
常勤職員	2人
非常勤職員	3人
兼任職員	9人

(5) にじいろ東都学園ユーススクール

管理者	1人
管理者補佐	2人
兼任職員	60人

(6) 学園本部

理事長	1人
本部職員	4人
本部付職員	1人
出向職員	1人

4. 校地及び校舎 (平成29年5月1日現在)

1) 郡山健康科学専門学校

校地 (㎡)

郡山市図景二丁目 74、75、76	1,106.6
81-1	563.13
81-2	329.40
106、107	3,244.26
99-1	2.24
100-1	18.82
103-1	50.00
郡山市小原田五丁目 84	485.00
<u>(合計)</u>	<u>5,799.45</u>

校舎 (㎡)

郡山市図景二丁目 74、75、76	1,461.68
106	2,046.49
107	7,576.31
<u>(合計)</u>	<u>11,084.48</u>

2) 借用

土地 (㎡)

郡山市図景二丁目 88	991.71 (駐輪場)
郡山市小原田二丁目 98-1	313.91 (学生寮)
<u>(合計)</u>	<u>1,305.62</u>

建物 (㎡)

郡山市小原田二丁目 98-1	278.24 (学生寮)
<u>(合計)</u>	<u>278.24</u>

## 5. 事業の概要

### 1) 4月1日(土) 入学式

ホテルハマツにおいて、入学式挙行。4年ぶりに保護者、来賓をお招きしての挙行。

入学者数 154名(学科別内訳: こども未来学科 16名、介護福祉学科 27名、メディカルスポーツ柔道学科 26名、作業療法学科 14名、理学療法学科 56名、日本語学科 15名)

### 2) 4月5日(水)～4月7日(金) 新入生・在校生ガイダンス

### 3) 4月25日(火)～4月28日(金) 海洋リハビリテーション研修

学術交流協定校である琉球リハビリテーション学院沖縄県国頭郡・那覇市) 海洋リハビリテーション研修を実施。参加対象は、医療系学科メディカルスポーツ柔道学科、作業療法学科および理学療法学科各2年生、計96名が参加。

### 4) 6月13日(火) 高等学校教諭対象の学校説明会

13校(来校11校、web2校)の進路指導部教諭の方々に参加していただき、本学についてより理解を深めていただくとともに、生徒に進路指導を行なう上で必要な質疑応答・情報交換を行った。今年度の入学試験の変更点として、指定校推薦入試の本校の考え方について具体的な内容を説明。また、参加された各高等学校から入学している在校生との面談の場を設け、どのような学校生活を送っているかを直接知る機会が得られたと大変好評であった。

### 5) 6月27日(火) スポーツ大会

宝来屋 郡山総合体育館を会場に日本語学科を含む全学科合同にて開催。

### 6) 8月3日(木)～8月9日(水) 前期末試験

### 7) 8月28日(月) 就職説明会

ビッグパレットふくしまにて開催。参加者80企業が参加。卒業見込み学生はこども未来学科31名、介護福祉学科30名、メディカルスポーツ柔道学科13名、作業療法学科14名、理学療法学科48名)

### 8) 11月3日(金祝) 東都祭を開催

4年ぶりに制限なしの入場にて開催。

### 9) 12月12日(火) 第1回卒業判定会議

97名が卒業判定

内訳: 介護福祉学科30名、メディカルスポーツ柔道整復学科10名、作業療法学科13名、理学療法学科44名

留年者は7名及び退学者7名

留年者内訳: メディカルスポーツ柔道整復学科3名、作業療法学科1名、理学療法学科3名、

退学者内訳: メディカルスポーツ柔道整復学科5名、理学療法学科3名

### 10) 2月1日(木)～2月7日(水) 後期末試験

### 11) 2月27日(火)～2月28日(水) 解剖学見学実習

神奈川歯科大学において、解剖学見学実習を実施。参加者は、メディカルスポーツ柔道学科2年生28名、作業療法学科2年生24名及び理学療法学科2年生64名、引率教員9名、合計125名の参加で実施した。

### 12) 3月5日(火) 第2回卒業判定会議

92名が卒業判定

内訳: こども未来学科28名、日本語学科64名

留年者は4名及び退学者3名

留年者内訳: こども未来学科4名、日本語学科0名

退学者内訳: こども未来学科0名、日本語学科3名

### 13) 3月15日(金) 卒業式・卒業記念パーティー

ホテルハマツにて卒業式および卒業記念パーティー挙行。保護者、来賓、非常勤講師をお招

きして挙行。

卒業者は189名(学科内訳:こども未来学科28名、介護福祉学科30名、柔道整復学科10名、作業療法学科13名、理学療法学科44名、日本語学科64名)、来賓出席12名、非常勤講師出席7名であった。

また、卒業式後に初めて開催した卒業記念パーティーには保護者7名も出席した。

#### 5-1 各学科進級・卒業・留年及び退学者の状況

学 科	学年	在籍者	進級者	卒業者	留年者	退学者
こども未来学科	1	16	15		0	1
	2	32		28	4	0
介護福祉学科	1	27	26		0	1
	2	30		30	0	0
メディカルスポーツ 柔道整復学科	1	26	25		0	1
	2	28	28		0	0
	3	18		10	3	5
作業療法学科	1	14	14		0	0
	2	26	24		0	2
	3	29	28		1	0
	4	14		13	1	0
理学療法学科	1	56	52		0	4
	2	64	59		0	5
	3	52	50		1	1
	4	48		44	3	1
日本語学科 <1.5年>	1年	0	0		0	0
	1.5年	0		0	0	0
日本語学科 <2年>	1年	15	15		0	0
	2年	67		64	0	3
国際日本語学科	1年	0		0	0	0
計		562	336	189	13	24

#### 5-2 学校説明会等参加者数

開催日時	種 別	参加者	開催日時	種 別	参加者
4月29日	体験入学	23	10月7日	学校説明会	8
5月27日	学校説明会	10	10月28日	体験入学	3
6月10日	体験入学	21	11月18日	学校説明会	4
6月17日	学校説明会	20	11月25日	入試対策セミナー	3
7月8日	オープンキャンパス	33	12月9日	体験入学	5
7月22日	オープンキャンパス	63	1月20日	学校説明会	7
8月20日	オープンキャンパス	79	2月10日	体験入学	9
9月9日	体験入学	18	2月23日	学校説明会	5
9月16日	入試対策セミナー	44	3月23日	オープンキャンパス	36

### 5-3 令和6年度生学生募集

実施日/出願種別		こども未来学科	介護福祉学科	柔道整復学科	作業療法学科	理学療法学科	計
9月2日	総合型選抜1期	2	5	2	2	6	17
	社会人・高校既卒1期	0	0	0	0	0	0
10月21日	指定校推薦1期	7	10	6	11	32	66
	公募推薦1期	0	1	1	0	2	4
	就学支援型1期	0	0	0	0	0	0
12月17日	指定校推薦2期	0	0	0	1	1	2
	公募推薦2期	0	0	0	0	0	0
	一般1期	2	1	0	1	0	4
	社会人・高校既卒2期	0	0	0	0	1	1
	就学支援型2期	0	0	0	0	0	0
2月3日	一般2期	0	0	1	2	2	5
3月16日	特別選抜	0	0	0	0	0	0
	留学生入試	-	1	-	-	-	1
合計	出願者	11	18	10	17	44	100
	欠席者	0	0	0	0	0	0
	合格者	11	18	10	17	43	99
	不合格者	0	0	0	0	1	1
	辞退者	0	0	0	3	1	4
	入学者	11	18	26	14	42	95

◎JL 留学生 計22名、IJL 留学生 計14名

入学者総合計 131名

### 5-4 キャリア就職支援

#### 1) キャリア就職支援

キャリア就職支援の一端として、令和5年度就職説明会を8月28(月)ビッグパレットふくしまにて開催。参加施設数80施設、学生参加者計93名(学科内訳:NT14名、CCW27名、MSJ2名、OT18名、PT32名)

#### 2) 求人件数は次の通り

##### (1) こども未来学科

北海道7件、東北37件(福島県を除く)、福島県65件、関東210件、甲信越3件、北陸0件、東海0軒、近畿6件、中国0件、九州1件、沖縄県0件

合計329件、求人募集人数2,871人、求人倍率102.5倍

〈施設区分: 保育園229件、こども園21件、乳児院3件、幼稚園14件、病院6件、児童養護施設6件、障害者施設4件、複合施設31件、その他21件〉

##### (2) 介護福祉学科

北海道2件、東北42件(福島県を除く)、福島県110件、関東134件、甲信越4件、北陸0件、東海15件、近畿26件、中国2件、四国6件、九州0件、沖縄県0件

合計341件、求人募集人数1,589人、求人率53.0倍

〈施設区分: 病院50件、介護老人保健施設67件、特別養護老人ホーム82件、グループホーム7件、社会福祉協議会7件、デイケアセンター8件、障害者施設10件、訪問看護1件、複合施設49件、一般企業3件、その他57件〉

**(3) 柔道整復学科**

北海道3件、東北7件(福島県を除く)、福島県20件、関東80件、甲信越3件、北陸0件、東海9件、近畿11件、中国0件、四国1件、九州7件、沖縄県0件

合計141件、求人募集人数1,330人、求人倍率102.3倍

〈接骨・整骨院231件、病院5件、介護老人保健施設2件、特別養護老人ホーム5件、デイケアセンター3件、複合施設2件、その他1件〉

**(4) 作業療法学科**

北海道19件、東北50件(福島県を除く)、福島県45件、関東326件、甲信越8件、北陸0件、東海17件、近畿24件、中国1件、四国2件、九州2件、沖縄県1件

合計495件、求人募集人数2,398人、求人倍率184.5倍

〈施設区分：病院429件、診療所1件、介護老人保健施設22件、特別養護老人ホーム5件、デイケアセンター5件、障害者施設6件、訪問看護1件、複合施設9件、一般企業2件、その他29件〉

**(5) 理学療法学科**

北海道14件、東北52件(福島県を除く)、福島県40件、関東306件、甲信越6件、北陸0件、東海17件、近畿19件、中国2件、四国2件、九州1件、沖縄県1件

合計460件、求人募集人数2,637人、求人倍率59.9倍

〈施設区分：病院340件、診療所1件、介護老人保健施設22件、特別養護老人ホーム3件、グループホーム0件、訪問介護事業所0件、デイケアセンター7件、障害者施設6件、訪問看護1件、複合施設8件、一般企業5件、接骨院・整骨院2件、その他28件〉

**(6) 一般企業からの求人**

北海道1件、東北2件(福島県を除く)、福島県11件、関東17件、甲信越2件、北陸0件、東海2件、近畿0件、中国0件、四国0件、九州0件、沖縄県0件

合計35件、求人募集数577人

**(7) 公務員の求人**

東北2件(福島県を除く)、福島県1件、関東2件、九州1件 合計6件、求人募集数6人

**3) 就職実績は次の通り**

**(1) こども未来学科**

卒業者28名、就職斡旋希望者28名、就職決定者28名、就職率100%

就職先：宮城県1名、福島県22名、埼玉県2名、千葉県1名、神奈川県1名、兵庫県1名

**(2) 介護福祉学科**

卒業者30名、就職斡旋希望者30名、就職決定者30名、就職率100%

就職先：福島県30名

**(3) 柔道整復学科**

卒業者13名、就職斡旋希望者7名、就職決定者7名、就職率100%

就職先：東京都3名、埼玉県2名、神奈川県2名

**(4) 作業療法学科**

卒業者13名、就職斡旋希望者12名、就職決定者12名、就職率100%

就職先：福島県10名、埼玉県1名、東京都1名

**(5) 理学療法学科**

卒業者44名、就職斡旋希望者31名、就職決定者29名、就職率93.5%

就職先：山形県1名、宮城県1名、福島県22名、東京都4名、埼玉県1名

未定2名

### 5-5 国家試験の状況

国家試験の状況は次の通り

●郡山健康科学専門学校（現役生）

学 科	受験者数 (人)	合格者数 (人)	不合格者	合格率 (%)	全国平均 (養成校%)
こども未来学科	28	28※1		100%	
介護福祉学科	30	29	1※2	90.7%	71.5%
柔道整復学科	9	7	2	77.8%	84.0%
作業療法学科	13	12	1	92.3%	91.3%
理学療法学科	44	31	13	70.5%	95.2%

※1 こども未来学科においては、保育士資格は卒業時自動取得となっている。

※2 介護福祉学科においては、卒業時共通試験において全員合格となっている。(当面暫定措置)

### 5-6 奨学金・修学資金受給状況

(1)-①独立行政法人日本学生支援機構 奨学金制度（全学生対象）

学科/学年		第一種	第二種	給付	合計		備 考	
							①給付+貸与型併用	②第一種+第二種併用
こども未来学科	1	0	2	0	2	15	①0名	②1名
	2	5	3	5	13		①1名	②0名
介護福祉学科	1	3	2	2	7	15	①2名	②1名
	2	5	1	2	8		①1名	②0名
MS 柔道整復学科	1	10	5	7	22	58	①5名	②3名
	2	11	14	3	28		①2名	②5名
	3	4	3	1	8		①0名	②1名
作業療法学科	1	3	3	2	8	61	①2名	②1名
	2	7	8	2	17		①2名	②2名
	3	10	15	5	30		①5名	②4名
	4	3	2	1	6		①0名	②0名
理学療法学科	1	20	23	10	53	194	①7名	②6名
	2	25	27	13	65		①11名	②11名
	3	16	24	8	48		①5名	②8名
	4	14	16	0	30		①0名	②6名
合 計		132	149	62	343		①34名	②49名

(1)-② 独立行政法人日本学生支援機構 授業料等減免事業金制度（全学生対象）

交付額 29,950,600 円

実人数 59 人（授業料 ⇨ 満額 30名、3分の2 16名、3分の1 10名）

（入学金 ⇨ 満額 11名、3分の7名、3分の1 2名）

## (2) 福島県介護福祉士修学資金等貸付制度 (介護福祉学科対象)

学科/学年		採用者		備考
介護福祉学科	1	6	20	
	2	14		

## (3) 福島県保育士修学資金等貸付制度 (こども未来学科対象)

学科/学年		採用者		備考
こども未来学科	1	2	8	
	2	6		

## (4) 福島県理学療法士等修学資金制度

学科/学年		採用者		備考
作業療法学科	1	1	11	
	2	3		
	3	6		
	4	1		
理学療法学科	1	11	51	
	2	18		
	3	12		
	4	10		

## (5) こおりやま東都学園奨学金制度 (全学生対象)

採用種別	採用者	採用者 学科・学年	備考	
第一種	0	6		
第二種	1			50万円 (MSJ2年: 1名)
第三種	5			30万円 (PT1年: 1名、PT2年: 1名、PT3年: 3名)
その他	0			

## 6. 各学科の事業概要

### 6-1 【ゲイムスポーツ柔道整復学科】

定員数： 72名（1年生24名、2年生24名、3年生24名）

学生数： 71名（1年生26名、2年生28名、3年生17名）+ 聴講生3名 ※5月1日時点

教員数： 7名（週5勤務の常勤5名）

#### 1. 教育について

##### 1) 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

退学者5名（除籍含む）（退学率7%）、留年者3名、卒業生10名

##### 2) 国家試験結果

現役受験者9名、合格者7名、合格率77%

既卒受験者7名、合格者5名、合格率71.4%

総合受験者16名、合格者12名、合格率75%

聴講生受験者3名、合格者3名、合格率100%

全国平均 総合66.4%、新卒84%、既卒35.9%

##### 3) 臨床実習

1年次 臨床実習Ⅰ キース鍼灸接骨院30時間、海洋リハビリテーション15時間

2年次 臨床実習Ⅱ キース鍼灸接骨院30時間、山岳リハビリテーション15時間

3年次 臨床実習Ⅲ キース鍼灸接骨院90時間

新型コロナウイルス対策として外部の実習を控えてきたが、少しずつ外部施設への実習を増やしたい。  
今年度より山岳リハビリテーションを臨床実習の一環として実施した。

##### 4) 就職

卒業生10、斡旋辞退者1名、就職者9名（就職率100%）、辞退者は国家試験受験のため聴講を希望。  
就職者9名中8名が県外、1名が県内。

##### 5) その他

今年度は柔道整復師の教員講習会が北九州でおこなわれ、全国の専科教員との交流を深めることができた。本校では週5日勤務常勤人数が足りず、学生一人一人に対して質の高い教育を行う事が困難な状態が続いている。次年度も教員講習会に参加し、専任教育の確保に有益な活動としたい。

#### 2. 次年度事業計画

##### 1) 教育目標

柔道整復学を通して、豊かな人間性を形成する。

1・2年次から規則正しい生活の指導を行い、学習習慣を身につけさせ、社会に貢献できる柔道整復師を育成する。

##### 2) 休学・退学・復学

退学率5%以内

各学年担任に退学率を意識させ、学生の退学予兆を見逃さないような指導を身につけさせる。

##### 3) 国家試験

合格率80%以上、聴講生合格率100%

今年度は外部模試だけでなく、校内模試を5回実施し、学習面の進捗状況を客観的に分析しながら進める。各回ごとに自分の苦手分野を意識させ、解説を取り入れ分からないことをなくしていく。昨年同様の聴講生も合格率100%を目指し、あきらめなければ試験に合格できるということを示したい。

##### 4) 学生募集

定員の充足（24名）

積極的な広報活動を行い定員の充足を目指す。高校訪問やガイダンスだけでなく、高校のクラブ活動をサポートしながら高校の先生と交流を深めることで、学生募集につなげたい。

## 5) その他

外部臨床実習施設の確保に努める。

## 6-2 【作業療法学科】

定員数： 96名（1年生24名、2年生24名、3年生24名、4年生24名）

学生数： 82名（1年生14名、2年生14名、3年生25名、4年生29名）※5月1日時点

教員数： 6名

### 1. 教育に関して

#### 1) 在籍状況について

在籍者83名に対し、退学者2名（退学率2.4%）、留年者2名、進級者66名、卒業生13名となった。退学者のうち、1名は精神的な不調を訴え、通院、療養を目的に休学していた。その後も体調面の回復も不良で通学復帰が困難なことから退学となった。もう1名はクラスメイトとのトラブルから休みがちとなり、ご家族含めて面談などの対応をしたものの、最終的には進路変更を理由に退学となった。

令和5年度の留年者は4年生1名と3年生1名で、4年生の学生は実習でのつまづきが原因であったものの、次年度再度臨床実習に取り組む予定である。留年した3年生の学生は1年次に1度留年を経験しているほか、前年度も学業と臨床実習が原因で留年している。保護者とも面談した結果休学を選択し、本校の介護初任者研修を前期に受講し、後期は福祉施設でアルバイトを行うなど社会経験を積み、次々年度から実習と学業に覚悟を持って取り組めるように支援していく予定である。

#### 2) 国家試験について

現役生受験者13名、合格者12名、合格率92.3%

既卒生受験者5名、合格者3名、合格率60.0%

全国平均は、総合84.1%、新卒91.3%であった。

現役で不合格となった1名は、入学当初から学力、社会性に課題のある学生で、3年次に一度留年を経験していた。年度早期から担当教員を配置しての学習に取り組んだが、学力と臨床実習に課題のある学生にとっては、実習準備と国家試験対策の双方をバランスよく進められず、結果、国家試験対策はおろそかになってしまった。令和6年度は3月から国家試験対策を始め、学生の基礎医学を中心に知識土台の強化に取り組んでいる。国家試験過去問や業者模試の過去問を定期的を実施し、学習面の進捗状況や課題を客観的に分析しながら進めていく予定である。昨年度同様に、全国リハビリテーション教育協会国家試験コンテンツの利用や、合同講義を受講するなど学びの多様化を進めていきたい。

#### 3) 臨床実習

3年生の臨床実習Ⅰ（評価実習）は3週間、4年生の臨床実習Ⅱは4週間、すべての実習において、全学生が実習施設で実施することができた。一部、院内での新型コロナ感染により学校でフォローする期間もあったが、それについても実習施設と連携し、指導を仰ぎながら進めることができた。厚生労働省より令和6年度は臨床実習のコロナ特例が原則認められないと通知があり、次年度以降も学生が臨床実習を通して臨床経験を積めるように対応していく。

なお、次年度の実習施設も内諾をいただきすべて臨床実習を行える体制は整っている。次々年度も含めて今後も早期の実習地確保に努めたい。

#### 4) 就職状況

卒業生13名、斡旋辞退者1名、就職者12名（就職率100%）、10名が県内就職、2名が県外就職

と、県内出身者がそのまま県内で就職する傾向が続いている。

## 5) その他

2019 年まで実施していた作業療法学科卒業生に対する卒後教育研修会が、新型コロナの感染拡大により見送りとなっている。対面形式の可能性及び遠隔（ハイブリッド）研修手段の充実が図られているので、令和 6 年度以降の開催に向けて取り組んでいきたい。

作業療法学科は、令和 5 年度までの 23 年間で 525 名の卒業生を輩出しており、今後も継続的な活動を行うことで、実習施設確保、非常勤講師としての招聘、専任教員確保に有益な活動としたい。

## 2. 次年度事業計画

### 1) 学科教育目標

- (1) 国家試験を見据えた学年ごとの到達すべき基礎学力の修得
- (2) 実習・実技の到達度の底上げ、病院施設に求められる人材の育成
- (3) 国家資格取得に向けて継続して頑張れる意欲をもてる関わり

### 2) 教育内容計画

上記、教育目標を達成するための計画

#### ① 国家試験を見据えた基礎学力（主要科目）の修得について年次ごとの体系化

[関係する学科教育目標 - 1 ]

- ・ 国家試験、臨床実習に向けた知識の定着が当該学年（3 年、4 年）においても不十分である。
- ・ この課題の解消として、1 年次に基礎医学、2 年次、3 年次に臨床医学の国家試験問題に取り組む。
- ・ 最終学年進級時における最低学力の底上げを目指す。

#### ② 成績不良者を対象としたフォローグループの実施

[関係する学科教育目標 - 1 ]

- ・ 3 科目模試に学年目標を設ける。
- ・ そこに達しない学生については、次年度の課外学習においてフォローグループ学習を実施する。

#### ③ 学年を跨いだ学び合いシステムの継続

[関係する学科教育目標 - 1 ]

- ・ 現行、課外時間で実施している「ハウスシステム=学年間混合の小グループ」
- ・ この時間において、国家試験に係る主要科目を、学年を超えて学び合う。
- ・ 実習にむけた実技や評価法の教え合いの機会を設け、実技系内容においても主体的に学び合う。
- ・ 各グループには教員も担当し、学生達をサポートする。

#### ④ 実習実技試験（OSCE）への臨床実習指導者の招聘

[関係する学科教育目標 - 2 ]

- ・ 実習に関して、学内の準備レベルと実習施設で求められるレベルとの差異が生じてしまい、学生の心身の負担が増大し、かつ、実習施設からの学校に対する評価も低くなってしまう。
- ・ 2023 年度は 3 年生の実習前・後実技試験に臨床実習指導者に参加いただき、実習前の準備、実習後の成果および振り返りについて、学生に直接関わっていただき、一定の成果を感じている。
- ・ 2024 年度は、4 年生の実習前・後実技試験にも参加いただける計画を施し、県内の主要実習施設との連携を高め、学生の臨床に対する力の底上げを図る。

・また、実習施設との連携強化により、継続的な実習施設確保にもつなげる。

⑤ 臨床実習指導者と学生との実習後シンポジウムの開催

[関係する学科教育目標 - 2および3 ]

- ・実習後の成果報告会（実習報告会）は専任教員の指導、評価となっている。
- ・実習施設で指導を受け、報告会の内容に、助言を受けられないことが課題である。
- ・実習後の成果報告会（実習報告会）に臨床実習指導者の参加を呼びかけ、さらなる教育的効果を目指す。
- ・また、学生の将来像（職業アイデンティティ）の育成に向けて、学生、臨床実習指導者、専任教員の協働によるシンポジウムを企画する。

⑥ 多様な作業療法(リハビリテーション)の場面を学ぶ機会を提供する。

[関係する学科教育目標 - 3 ]

- ・県内で活動する臨床作業療法士や卒業生を非常勤講師として招聘する。
- ・海洋リハビリテーション研修および関連した特別講義の実施。
- ・わんぱく東都学園放課後等デイサービスでの演習の実施。  
(1年次、2年次に附属保育園や放課後等デイサービス、学外の高齢者施設などでの見学や主体的に関わる科目を実施する。)
- ・各種ボランティア活動への学科の支援と学生ボランティアの斡旋。

3) 国家試験・各種検定等対策

○ 4年生の国家試験対策

(1) 国家試験目標

- ・合格率100%
- ・受験予定者数（新4年生）29名

(2) 対策のスケジュール（案）

■新4年生

- ・基礎医学、臨床医学は体系的学習と領域の確認問題、不足点の追加学習の実施（2月後半より実施開始）
- ・定期的な観測点を設け、学生の進捗度、苦手領域を学生自身が把握するとともに担当教員と共有。
- ・学生に国家試験担当を設け、教員のトップダウンの指導だけでなく、学生から学生全体に共通する理解が不足している領域に対して、各専門教員が適宜講義を実施する。
- ・11月までは専門基礎（基礎医学・臨床医学）を中心に実施し、7割を目標に行う。
- ・12月以降は専門、専門実地を中心にしつつ、専門基礎のフォローを行っていく。
- ・各時期による模試の目標点数の設定、最後の模試では220点を目標値として学生と共有し実施していく。

■1～3年生の国家試験対策

- ・三科目模試による継続的な基礎知識の振り返りを実施する。
- ・学年の垣根を超えた学習サポートシステム「ハウスシステム」の稼働  
1年生と2年生の小グループ活動、2年生と3年生の小グループ活動の時間を設け、学習や実習対策を実施する。

(3) 外部模試

- ・医歯薬出版；3回、アイペック；4回、三輪書店；2回、計9回
- ・模試得点目標：11月末まで；専門基礎（基礎医学・臨床医学）100点中70点。  
12月末まで；外部模試280点中168点。

1月末まで；外部模試280点中220点。

#### 4) その他

##### (1) こおりやま東都学園同窓会の活動

ここ数年の同窓会の活動が進められていないため、再始動に学科としても積極的に取り組んでいきたい。

##### (2) 作業療法学科卒業教育研修会の再開

2019年度までの3年間の活動以降、活動を見合わせている。

卒業生10名に運営委員を委嘱して、教員と共同で企画・運営してきており、現職教員着任以前の卒業生とも繋がりを持つ機会となっている。

2021年度までの21年間で512名の卒業生を輩出しており、今後も継続的な活動を行うことで、実習施設確保、非常勤講師としての招聘、専任教員確保に有益な活動としたい。

##### (3) 放課後等デイサービス、こども未来学科と連携した活動

学科教員が多数関わっている放課後等デイサービスについて、利用児や保護者を対象としたイベントを企画していきたい。

概要としては、土曜や夏休み期間などで、作業活動(陶芸や体育館活動、屋外での活動)など、普段の活動ではできない内容を目玉として企画していき、子どもたちの様々な経験の場を設けていきたい。

### 6-3 【理学療法学科】

定員数：272名（1年生66名、2年生66名、3年生60名、4年生80名）

学生数：220名（1年生56名、2年生64名、3年生52名、4年生48名）※5月1日時点

教員数：9名

#### 1. 教育について

##### 1) 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

①1年生在籍者56名 進級52名、退学者4名

②2年生在籍者64名 進級60名、退学者4名

③3年生在籍者52名 進級50名、退学者1名、休学1名

④4年生在籍者48名 卒業生44名、退学者1名、留年3名

##### 2) 国家試験結果

新卒受験者44名 合格者31名 合格率70.5%（全国平均89.3%）

既卒受験者6名 合格者2名 合格率33.3%

##### 3) 臨床実習

2年次見学実習：8月21日（水）～同月23日（金） 3日間

3年次在宅リハビリテーション実習：12月21日（月）～12月27日（金） 1週間

\*学内演習にて実施

3年次臨床実習Ⅰ：令和6年1月9日（月）～2月14日（金） 4週間

\*学内演習にて実施

4年次臨床実習Ⅱ：前期6月5日（月）～7月28日（金） 8週間

前期9月4日（月）～10月27日（金） 8週間

\*学内演習と学外実習を併用して実施

##### 4) 就職

国家試験合格者31名中29名が内定 残り2名は近日中に内定予定

## 2. 次年度事業計画

### 1) 教育目標

①理学療法教育の充実と効率化を図るため、教育カリキュラムの改定を行う。

◇カリキュラムマップを整備し、1年次から国家試験まで計画的に教育を提供する。

◇カリキュラムマップをもとに、学生はもちろんのこと教員にとっても効率的な科目の改定と配置を行う。

◇カリキュラム改定に伴いシラバスを整備する。

②学生の理解と興味を深められる講義の展開を目指す。

◇教員間における講義見学を実施し意見交換を行うことで、より良い講義展開のための研鑽を行う。

◇学生が聴講するのみの講義ではなく、参加する講義を目指し主体性を身につけさせる。

◇学生の理解が得られるような講義を展開し、学生に興味を持たせることで講義への理解度を向上させる。

③教育の質の向上を図る。

◇教員のスキル向上を図る。

・幅広い知識を身につけ、学生の要望に応えられるゼネラリストの育成を目指す。

・学内で行われている教員研修ならびに外部の研修会への参加を奨励し、学内教育への反映を図る。

・教員の自己研鑽のための学位取得を可能な範囲で促す。

◇学年ごとに定期的にミーティングを開催し、担任と科目担当教員で意見交換ならびに学年における問題点の共有を行う。

### 2) 休学・退学・復学

◇休学・退学者の低減を図る。

・学業不振による退学者を減らすべく、学習面のサポートを強化する。

・悩みのある学生に対しは担任を窓口として対応し、積極的にスクールソーシャルワーカーに相談する。

・学年ミーティングを開催し、悩みを抱えている学生や成績状況などを科目担当者も把握し講義を行う。

### 3) 国家試験

◇国家試験の合格率の向上を図る（目標は既卒を含めた全員合格）。

〈4年生の国家試験対策〉

4～8月 は臨床実習への対策も含むため、実習で必要となる基礎（以下共通問題）を中心に模試と解説を行う。実習終了後（10月～）は共通領域の補習と模試を行い、点数の底上げを図る。1月ごろから専門分野（以下専門問題）の補習と模試を行う。成績の向上がみられない学生については、教員が個別に指導を行う。

4～5月 分野別小テスト（解剖・生理・運動学中心）

・各試験後解説作成（頻出エリアを重点的に） 学生ペアで口頭試問

7～8月 共通・専門の過去問実施…共通は解剖・生理・運動学・病態

・共通は試験後解説作成、ペアで口頭試問

※状況に応じて成績不良者は教員による個別対応（苦手領域の抽出と対策）

10～11月 共通問題の模擬試験を複数回実施し、学年ならびに個人の苦手領域を把握  
苦手・頻出分野の補習講義

講義終了後に小テストを行い知識の定着を図る。

12月 成績不良者に対する個別指導を行う。

※12月末までは基礎（共通）問題中心で行う。

1月～2月 専門領域の対策を開始 合格ラインに到達している者で個別ゼミ対応  
共通領域同様に模試を行い、苦手分野の把握→補習→確認模試

〈1～3年生の国家試験対策〉

国家試験対策は4年次にのみ行えば良いということではなく、1年次からの積み重ねが重要である。特に1年次に履修する解剖・運動・生理学が、理学療法のエビデンスになることや国家試験の出題範囲の25%以上を占めることから、この3科目については3年間を通して徹底的に強化する。

1年生…解剖・運動・生理学の知識強化 定期的に模試を行い知識の定着を図る。模試の解説方法の説明

2、3年生…解剖・運動・生理学の復習の徹底 その他科目に関する模試と解説

#### 4) 学生募集

全国的に入学者数が減少傾向となっているが、全国には250校を超える理学療法の養成校があるため、学生から選ばれる学校づくりが必要となっている。選ばれる学校となるためには他校にはない魅力を発信することが必要である。学生や保護者から「入学したい（させたい）」または「入学してよかった」と思われる学校になるためのブランディングが必要であると考える。

学科の取り組みとして

- ①国家試験の合格率を100%にする
- ②学内教育ならびに学校生活の充実
- ③学生が積極的に学習できる環境づくり
- ④オープンキャンパスや体験入学での魅力的な学科紹介
- ⑤出張講義やガイダンスなどの外部イベントは積極的に参加する

#### 5) その他

◇実習地の確保について

これまでは新型コロナの影響により学内実習であったが、来年度からはコロナ感染拡大前の状況に戻り、特別な事情がなければ病院などの施設での実習が求められる。ところが、来年度の承諾状況としては（2月19日現在）いまだ厳しい状況が続いており、来年度以降もその状況が継続することが予想される。その要因として、コロナにより施設との連携が途切れたこと、教員が退職して関係が途切れてしまうこと、過去に学生の教育が不足して施設側に迷惑をかけてしまい信用をなくしたという声が施設側から聞かれる。

したがって、今後実習を継続させるために必要な点として、

- ・知識・技術はもちろんのこと、人間性や社会性に対する学生教育を充実させる。
- ・教員が施設側と積極的に連携を取り、関係性を深める。
- ・県士会等の外部の研修会やイベントに積極的に参加し、指導者との交流を深める。
- ・各実習前にバイザー会議を開催し、実習の実施要項と派遣学生の理解を深めてもらい、スムーズな実習の導入を図る。
- ・実習期間中も施設側と密に連携し、学生と指導者の双方にとって実習が充実するように努力する。

#### 6-4 【介護福祉学科】

定員数： 66名（1年生33名、2年生33名）

学生数： 57名（1年生27名、2年生30名）※5月1日時点

教員数： 5名

## 1. 教育について

### 1) 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

2023年度1年生27名(進級26名、休学1名、退学1名)、  
2年生30名(卒業30名)

### 2) 国家試験結果

30名中29名合格(本校合格率96.7%、全国養成施設合格率71.5%※留学生除く93.5%)

2023年度国試合格点は67点であった。合格基準は以下のとおり。

- ・総得点125点に対し、60%を基準に補正が入った点数を満たしていること
- ・11科目すべてにおいて得点があること

合格点を越えていても11科目のうち得点のない科目があれば不合格となってしまうことから、引き続き、国家試験対策中は模試による個々の弱点分析(自己分析)をし、グループ学習や個別指導により弱点科目の克服と得意科目の高得点を目指せるよう学生とかかわる。対策は1年次より国試問題同様の練習問題をはじめ、2年次には応用問題に対応できるよう逐次指導している。

### 3) 臨床実習

実習Ⅱ(前期) 5月15日(月)～6月2日(金)うち12日間

新型コロナの影響により、最大で6日間全5名の学生に学内演習を実施する。

実習Ⅰ 6月6日(火)～6月15日(木)うち5日間

新型コロナの影響により、2日間27名の学生に学内演習を実施する。

社会福祉現場実習 7月24日(月)～7月27日(木)福祉事務所

9月4日(月)～9月7日(木)学内演習

9月11日(月)～9月14日(木)社会福祉協議会

実習Ⅱ(後期) 9月25日(月)～10月27日(金)うち20日間

新型コロナの影響により、最大で2日間全2名の学生に学内演習を実施する。

実習Ⅰ-2 10月30日(月)～11月24日(金)うち12日間

新型コロナの影響により、最大で7日間全3名の学生に学内演習を実施する。

### 4) 就職

30名中30名内定(学校斡旋希望100%、県内100%)

出身地またはその近辺に就職を希望する学生が多く、そのなかでも、実習施設に就職を希望する学生が多かった。また、同施設に複数応募する様子(例：1施設に4名応募4名内定)も見られた。

### 5) その他

実務者研修

2023年度18名の実績となった。

2019年度以降はホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内で受講者募集をしている。引き続き、学科教員をはじめ他部署の協力を得て募集活動を実施する。

初任者研修

2023年度1名の実績となった。

初年度は十分な受講者確保につなげることはできなかったが、次年度以降は他学科からの受講者も見込めるため、ホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内に加え、学内での募集活動(NT、IJL)にも力を入れたい。

## 2. 次年度事業計画

### 1) 教育目標

#### ①特別講義等について

医療系学科(PT、OT、MsJu. t)の教員による授業に加え、VRを活用したシミュレーション教育、福島県介護ロボット普及促進事業に係る講義は引き続き開講し、質の高い福祉サービスが提供できる人材を育成したい。

#### ②課題のある学生について

定期面談に加え、適時情報共有に努める。

#### ③外国人留学生について

新入生1名、初任者研修受講生14名とかかわる人数が増えるため、受講生所属の国際日本語学科、日本語学科と情報を共有・連携し国家試験合格・研修修了を目指す。

### 2) 休学・退学・復学

2023年度1年生27名(休学1名、退学1名)

担任をはじめ、学科教員で複数回学生及び保護者面談を実施したが、上記のような結果となった。同クラスには少なからず影響を与える可能性があり、他の学生たちに対して、サポートや理解を促すことを優先にかかわっていく。今後も学生対応には充分注意し、できるだけ変化等に気づけるようかかわっていく。

### 3) 国家試験

1年次より介護福祉士養成課程の専門教育科目にて、国家試験同様の練習問題の解答を取り入れる等、国家試験を意識した授業を展開し、2年次の8月より本格的に国家試験対策を開始する。業者模試(2社×2回)の他、過去問等を利用した模擬試験を実施する。模擬試験の点数が振るわない学生に対しては、苦手科目等状況に応じて担当教員が個別指導や課題添削、補講等の対応を行なう。

### 4) 学生募集

募集定員33名(内留学生6,7名程度)充足率100%を目指す。

広報活動には従来通り積極的に参加する。実習施設や事業所訪問の際にはパンフレットやリーフレット等の広報物の設置を依頼する。教員及び学生(日本語学科、国際日本語学科)、学生同士の交流も引き続き計画し、入学につなげられるよう取り組む。

### 5) 実務者研修・初任者研修

#### 実務者研修

2023年度18名の実績となった。

2019年度以降電話での募集活動がメインとなっていたが、実習時の施設訪問等での広報活動を続け、受講生確保に努めていきたい。

#### 初任者研修

2023年度1名(学外)の実績となった。

初年度は十分な受講生確保につなげることはできなかったが、2024年度は国際日本語学科1年生14名、こども未来学科(5名)と約20名の受講者数は見込めるため、学外に限らず、学内での受講生募集活動にも力を入れたい。

### 6-5【こども未来学科】

定員数： 33名 (1年生33名：2年生33名)

学生数： 48名 (1年生16名：2年生32名)

教員数： 6名

#### 1. 今年度事業報告

##### 1) 在籍状況

1年生在籍16名(進級：15名、休学1名)

2年生在籍32名(卒業28名、留年2名休学1名)

##### 2) 国家試験結果

卒業と同時に保育士資格取得 28名

##### 3) 臨床実習

保育実習Ⅰ(施設)

2023年5月29日(月)～6月10日(土)

(休憩を除く、実習実時間が80時間を満たす実習)

保育実習Ⅱ・Ⅲ

2023年10月10日(火)～10月21日(土)

(休憩を除く、実習実時間が80時間を満たす実習)

##### 4) 就職

保育所：18名

児童発達支援センター：2名

障害児施設：3名

放課後等デイサービス：2名

学童保育：2名

歯医者受付(診察中に託児業務も行う)：1名

卒業生28名全員就職が決定した。

##### 5) その他

#### 2. 次年度事業計画

##### 1) 教育目標

①3つのポリシーを意識しながら、各学年の生活目標に沿って、学科教員全体で共通指導を行い、基本的な生活習慣形成から学習への取り組み向上に努める。

(1. 2年生ともにポートフォリオを活用し、生活状況、学習状況の確認を行う。)

1年次学生：クラスに馴染み、クラスメイトや教員との良い協力関係を築く。

2年生学生：実習を無事終了し、自己の課題を明確にして更なる学習に励む

卒業単位を満たし、保育士資格取得を目指す。

②キッズ東都学園保育園、わんぱく東都学園放課後等デイサービス及び福島ファイヤーボンズ託児の参加など、様々な体験学習やボランティアを通して学生の保育実践力の向上、また地域貢献を図る。

##### 2) 休学・退学・復学

学習状況や心身に課題のある入学者が増えているため、入学直後から学生面談を行い、学生の特性や状況を把握し、個別に対応し休学、退学を防止できるよう努める。

①学生の保護者と綿密に連絡を取り、3者面談を実施する。

- ・1年生は、5月に保護者会を行い、入学から現在までの生活状況の報告、またこども未来学科の教育目標について理解していただく。
- ・実習の内容について説明し、保護者へ協力を依頼する。

【保護者面談について】

1年生：保護者からの希望があれば実施する。また学業や生活面で心配なところが見られた場合、担任から連絡し保護者面談を実施する。

2年生：夏休み中に全員保護者面談を行う。

②留年学生（3名）について

それぞれに課題に違いがあるため、個別面談を行いながら卒業に向けて細やかに対応をしていく。

3) 国家試験

退学者防止に努め、資格取得に導く。

4) 学生募集

①豊岡短期大学通信課程で幼稚園教諭免許を取得することができる。

本校の教員が学習をサポートし、幼稚園免許取得を目指す。

②介護初任者研修を受講することで資格を取得することが出来、障害児の支援にもつながり、就職の幅が広がることをアピールする。

③在校生、卒業生へのきめ細やかな対応による、学科評価の向上に努める。

5) その他

## 6-6 【日本語学科】

定員数 80名（2年コース40名、1年6ヶ月コース40名）

学生数 28名（1年生15名（2年コース）、2年生68名（2年コース））

教員数 5名

1. 今年度事業報告

1) 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

2023年度1年生14名（進級14名、退学1名）、

2年生68名（卒業64名、退学4名）

2) 教育について

68名の2年生と15名の1年生の総勢83名で2023年度が開始されたが、5名退学となり、最終的に78名となった。退学者の詳細については、1年生が1名で2年生が4名。その内、就職ビザ取得の退学が4名、問題を起こした学生が1名となっている。

上級レベルの授業が終了し、66名が卒業した。在校生は中級レベルへ突入。JLPT合格者に関しては、N4が6名、N3が31名、N2が4名となった。

生活面においては、全員がアルバイトに従事しており、特に食品製造関係の就業先が多く、日本語を話す時間がほとんどない労働環境が多い。理由としては、他のアルバイトより工場勤務の時給が高く、給料面から接客業を避ける学生が多いということが挙げられる。しかしながら、接客業を行っている学生は比較的会話力が上っている様子が見られ、日本語能力の向上に一役かっていると見える。

現在のクラスは、ネパールとフィリピンの二国籍で構成されており、異文化コミュニケーションを図りな

がら、互いを尊重し合う良い関係性が築くことができている環境である。教室の雰囲気も良く、切磋琢磨しながら学習に励む姿が見られる。

## 2. 次年度事業計画

### 1) 教育目標について

- ・日本語でのコミュニケーション能力を習得できる教育を実施する。
- ・授業のみだけでなく、日本の文化・習慣・マナーも習得し、日本人と共生できるような地域社会に貢献できる人材を育成する。
- ・日本語教育を通じて国際交流を図る。

### 2) 休学・退学・復学について

在籍者全員が卒業できるよう指導していく。

### 3) 国家試験について

- ・1年次は12月の日本語能力試験でN4、2年次は7月にN3、12月にN2に合格できるよう指導する、また、各試験の1カ月前を目安に直前対策授業や模擬試験を行い、学生一人ひとりの苦手分野やよく間違える問題を見極め、授業以外に課題提出等でも合格できるようサポートを行う。
- ・日本語能力試験のみに縛られず、その他日本語関係の試験の受験を啓蒙する。

### 4) 学生募集について

- ・2024年度から募集活動を行う定員は2年コース、1年6ヶ月コース合わせ120名となる。定員充足のため、現在連絡を取っているエージェントを窓口として学生募集を行い、合格者全員に在留資格認定証明書が交付されるよう書類の準備を進め、申請を行う。

## 6-7 【国際日本語学科】

定員数 10名（福祉ビジネスコース、日本語教師実践コース）

学生数 0名（1年生0名）

教員数 3名

### 1. 今年度事業報告

今年度は学生が0名のため教員は日本語学科や他学科と連携をして学生指導をする。

### 2. 次年度事業計画

#### ■ディプロマ・ポリシー達成目標

1. 基礎となる日本語と日本語教育力を身に付けるために積極的に学ぶことができる。
2. 介護を実践するための知識や技術を身に付けるために学び続けることができる。
3. 海外の文化を相対化し、自分の意見を幅広い視野で表現できる。
4. 広く世界と日本の活躍の場で活躍したいと考えている。

#### ■カリキュラムポリシー教育課程の編成に関する基本的な考え方

- 1) 基礎科目では、日本で活躍ができるために必要な社会人に求められる基礎力を養う。
- 2) 専門科目では対人援助職として、主体的に行動できる力を身につける。
- 3) 国際人として、多様性を受け入れ柔軟に行動できる力を養う。

#### ■アドミッションポリシー学習の成果

- 1) 国際的な活躍をしたいという志が高い人。
- 2) 自分の考えを持ち、常に向上心を持って学び続ける人。
- 3) 多様性を理解し、全ての人を差別することなく愛することができる人。

■本年度の学科達成目標

【日本語能力検定合格 7月 N3 全員合格】

【ビジネスマナー検定3級 全員合格】

【介護初任者研修修了試験 全員合格】

【TOEIC 試験希望者 600 点以上】

【就職・進学率100%】

■本年度の学生募集達成目標

【福祉ビジネスコースの入学者 11 名獲得を目指す】

【日本語教師実践コース入学者 1 名の獲得を目指す】

7. 附帯教育部門

7-1 【キッズ東都学園保育園】

定 員：19 名 (内訳 0 歳児：6 名、1 歳児：6 名、2 歳児：7 名)

登録利用児 (人) 数：16 名

職 員 数：10 名

1. 報告

1) 利用実績

小規模保育事業に移行し、対象は0.1.2歳児となる。4月当初、11名の在籍から8月には19名が在籍、その後、令和6年3月まで定員は充足。

2) 行事報告

実施した主な行事 (実施記録を毎月報告書で提出)

4月：入園式、はじまりの会、お花見

5月：人形劇鑑賞会、親子遠足

6月：歯科検診、内科健診、個別面談

7月：七夕会、水遊び

8月：夏祭り、保育参観 (1. 2歳児)

9月：お月見会、親子運動会

10月：保育参観 (0歳児)、歯科検診、内科健診

11月：園外保育

12月：クリスマス発表会

1月：お正月遊び

2月：豆まき会

3月：ひなまつり会、おわりの会

3) 研修報告

外部研修：郡山市保育の質向上研修、キャリアアップ研修

内部研修：職員研修、学科の授業への参加、森川先生特別講演会参加

4) その他

2. 次年度目標

1) 事業所目標

理念：「すこやかな体」「あたたかな心」「ゆたかな知性」を備えた「人間力」の強い子どもを育てる  
方針：子どもたちの「生きる力」の基礎を作るために、子どもの生活や遊び、多世代交流などを通して  
ゆたかな心を育む

目標： 1. 一人一人の生活リズムを大切にし、健康で明るい子どもを育てる

2. 友達と遊ぶ楽しさを体験できる保育に努める

3. 自分でやりたい気持ちを最大限に尊重し、最後までやり遂げることのできる、豊かな知性を  
備えた子どもを育てる

2) 事業計画

ICT 導入による業務効率化、学科および附帯事業所との連携、研修等による保育の質向上

3) 研修計画

外部研修：郡山市保育の質向上研修、キャリアアップ研修

内部研修：職員研修、学科の授業への参加、森川先生特別講演会参加

4) その他

7-2 【キース鍼灸接骨院】

職員数： 2名

1. 報告

1) 利用実績

月	利用者数 (件)	売上
4月	98	¥185,470
5月	161	¥257,151
6月	274	¥621,144
7月	210	¥249,411
8月	104	¥150,695
9月	120	¥175,477
10月	185	¥229,152
11月	241	¥265,100
12月	161	¥189,896
1月	132	¥167,880
2月	111	¥137,170
3月	98	¥132,805
合計	1895	¥2,761,351
前年度	988	¥2,266,128

※売上に関して返戻等は含めていない

2) 行事報告

学園祭 柳メディカルサービス貸与 酸素ルームトラックの運営

3) 研修報告

管理者研修 (6月)

福島県柔道整復師会研修会 (7月・12月)

4) その他

2. 次年度目標 【簡潔版】 2024年3月役員会で事業計画を参考に簡潔版を作成する。

1) 事業所目標

利用者数 平均13人/日

年間売上 3,000,000円

2) 事業計画

昨年度は、一人体制から二人体制になり利用者数(前年度の191.8%)、売上(前年度の121.9%)

ともに一昨年度を上回りました。

今年度は、臨床実習施設として、メディカルスポーツ柔道整復学科の学生が、実習を行いやすい施設の提供。また、教職員・学生はもちろんの事、一般の方が利用しやすい環境づくりや、ニーズに合わせたサービスの提供を行っていきます。

昨年度に5週間行った試用期間の結果を鑑み、利用者数・売上の向上を目指し、2024年4月1日から、営業日時の変更をいたしました。なるべく、授業時間帯に合わせ、学生の実習時間の確保と来院しやすい時間帯へ、また、人の流れがある時間帯に変更いたしました。変更後の営業日時については下記になります。

- ・営業日 月・火・水・木・金
- ・営業時間 10:00~13:00/14:00~19:00
- ・休業日 土・日 ※祝祭日は不定休

### 3) 研修計画

検討中

### 4) その他

## 7-3 【介護職員初任者研修科及び介護実務者研修科】

### ○介護福祉士実務者研修科

定員：240名（内訳4月生80名、7月生、80名、10月生80名、1月生80名）

教員：6名

#### 1. 事業報告

##### 1) 受講者数 合計18名

4月生7名、7月生11名、10月生0名、1月生0名

##### 2) 運営状況

実務者研修の実績としては、2023年度は受講生18名となり、2022年度と比べ3名の増になった。2023年度の受講生を増やすため、学園ホームページへのバナー及びページの作成、4~6月にかけてのリスティング広告の実施を行った。ホームページからの受講申込にも繋がっている。

#### 2. 次年度事業計画

##### 1) 受講者数目標20名以上

昨年度より一人でも多くの受講者を獲得していきたい。

##### 2) 運営

2023年度18名の実績となった。次年度も継続してダイレクトメールの発送、FAXでの周知、実習連携施設などにもフォローしていく。また、実習時の施設訪問等での広報活動を続け、受講生確保に努めていきたい。

### ○介護職員初任者研修科

定員：40名（内訳4月生40名）

教員：5名

#### 1. 事業報告

##### 1) 受講者数 合計1名

4月生1名

##### 2) 運営状況

初年度は十分な受講者確保につなげることはできなかったが、次年度以降は他学科からの受講者も見込めるため、ホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内に加え、学内での募集活動（こども未来学科）にも力を入れたい。

## 2. 次年度事業計画

### 1) 受講者

初年度は、受講生確保につなげることはできなかったが、2024年度は国際日本語学科、こども未来学科からの受講生が見込める。

### 2) 運営

2024年度は国際日本語学科、こども未来学科から学生が資格取得するため受講生が受講する。社会ニーズに必要な介護に関わる人材育成をしていきたい。

今後も継続してホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内し受講者の獲得と学校教育力を発信し、学内外問わず募集活動を実施していく。

## 7-4 【わんぱく東都学園放課後等デイサービス事業所】

定 員：10名

登録利用児（人）数：31名

職 員 数：8名+運転手2名

### 1. 報告

#### 1) 利用実績

2020年11月に開所し3年目を経過した。2023年度の利用実績は、2,373名 年間平均稼働率は、83.6%、年間収入実績21,156,118円（国保連請求額）となった。2022年度の利用実績（2,450名）、年間平均稼働率（86.6%）に比べ、若干減少した。

2023年度も利用実績・稼働率の低迷の要因としては、以下の3点が考えられる。

- ①児童発達支援管理責任者が不在で、新規受け入れができなかった。
- ②営業時間の18:00迎えに間に合わない保護者が利用を休む等の調整をしていた。
- ③利用児の精神的不安による当日のキャンセル、コロナウイルスやインフルエンザ感染症による一定期間の欠席が依然として多かった。

#### 2) 行事報告

- ①事業所外活動（猪苗代・映画館・外食・買い物・スペースパーク・消防署見学等）
- ②事業所内活動（クリスマス・公園・散歩・運動活動・製作・クッキング・SST等）

#### 3) 研修報告

- ①R5.8 強度行動障害 受講者：5人（古川、田中（良）、柳沼、皆川、滝川）
- ②R5.10 児童発達支援管理責任者基礎研修・相談支援 受講者：2人（古川、柳沼）
- ③R6.1 令和5年度県中障がい保健福祉圏域連絡会『人財』育成部会全体研修会  
受講者：1人（古川）
- ④R6.2 郡山市市政100周年記念事業 第1回子育て応援 特別講演会  
受講者：4人（古川、田中（良）、柳沼、皆川）

#### 4) その他

- ①本事業所顧問の田畝氏が1回/2ヵ月程度来所され、利用児の状況や会計業務等について助言をいただいている。

②本学顧問の(株)奏音 森川氏とわんぱく東都のスタッフとでオンラインで1回/月のミーティング(R5.12～)を開始した。

## 2. 次年度目標

### 1) 事業所目標

現在も利用の問い合わせは続いているため、郡山市内における放デイ利用希望者のニーズが満たされていないことが窺える。2024年度は、児童発達管理責任者も配置され、新規受け入れと共に、既存の利用児の利用回数を更に増やしていくことで、稼働率を上げていくことは可能と考える。

一方、2024年6月に報酬改定があり現状のままでは収入減が見込まれる。児童発達管理責任者を中心に以下の加算を見直し、年間収益の向上を目指す。

#### ①児童指導員等加配加算

経験ある人材の活用・評価を推進する観点から、配置形態や経験年数に応じた評価となる。常勤専従・経験5年未満に1名が該当する。

②基本報酬におけるきめ細かい評価；発達支援に対するきめ細かい評価とする観点から、極めて短時間の支援(30分未満)は算定対象から除外する。支援時間区分が「30分以上1時間30分以下」「1時間30分超3時間以下」「3時間超5時間以下」の3区分となる。(放デイの時間区分3時間超5時間以下については学校休業日のみ算定可能)

③個別サポート加算Ⅰ；ニーズの高い障害児に対して、強度行動障害者養成研修(基礎研修)修了者を配置し支援を行った場合120単位/日となる。市町村による児の判定と都道府県への基準適合の届出が必要となる。職員に強度行動障害支援有資格者が3名在籍しており、支援度の高い利用児の受け入れも可能であるが、現在の利用児とのバランスを配慮し、今後の受け入れを検討していく。

④子育てサポート加算【新設】；家族の障害特性への理解と療育力の向上につなげる。保護者に支援場面の観察や参加等の機会を提供した上で、こどもの特性や、特性を踏まえたこどもへの関わり方に関して相談援助等を行った場合に加算される。

⑤その他：関係機関連携加算・事業所間連携加算・通所自立支援加算・自立サポート加算・家族支援加算等についても対応できるようにしていきたい。

以上を講じて、昨年度の目標の稼働率120%、月額収入2,500,000円を目指す。

### 2) 事業計画

①学科教員との連携：今年度から作業療法学科とこども未来学科の教員が管理者、管理者補佐となった。それぞれの学科教員と連携し、それらの専門性と共に利用児個々の特性の理解に努め、支援を柔軟に計画し提供していく。また、学生の実習機会として有効に活用してもらう。

②情報発信：行事や日頃の活動の様子をSNS(個人情報に関わるため、学園と相談・承諾書等の準備)からの発信により、更にわんぱくの認知度を高めていく。

### 3) 研修計画

①R6.5 郡山市市政100周年記念事業 第2回子育て応援 特別講演会 参加者：全員

②R6.6 児童発達支援管理責任者基礎研修・相談支援 参加者：田中良

③R6.9 福島県サービス管理責任者・児童発達管理責任者基礎研修 参加者：田中良

④R6.10 福島県サービス管理責任者・児童発達管理責任者実践研修 参加者：古川

⑤その他 職員の実務経験を考慮し、必要な研修会への積極的な参加を促す

### 4) その他

①本事業所顧問の田畝氏の助言を得て、改定への対応や加算等の見直しを進める。

②本学顧問の森川氏の講演会への参加、わんぱく東都のスタッフとの対面、およびでオンラインでの月例ミーティングを継続し、利用児の理解や支援内容の質の向上に努める。

## 7-5【にじいろ東都学園ユーススクール】

定 員：10名

登録利用児（人）数：1名

職 員 数：1名（兼任） + 全教職員：特長を生かして係わる

### 1. 報告

#### 1) 利用実績

利用児 1名

#### 2) 行事報告

行事のイベントはなく環境と教職員に慣れて貰う期間であった。

#### 3) 研修報告

2023年度は未実施

#### 4) その他

1. 教職員の特長見直し

2. にじいろ東都学園ユーススクール設置概要書の改訂

### 2. 次年度目標

#### 1) 事業所目標

当スクールは、我が国のあらゆる教育を補うべく、障害の有無を問わず、個性豊かな子どもたちの資質と能力を育むために、子どもたちの意欲を尊重しながら、家族とともに支援し、地域社会と連携した主体的かつ協働的な学びを実践する場所となる。

そのためにも、子どもたちが安心して楽しく過ごすことができる居場所をつくり、多様化した子どもたちの人生の創造に寄与するとともに、職業教育を施す本学園の成長と進化を遂げながら、これらの目的に資するために以下の活動や事業を行う。

#### 2) 事業計画

1. 規則正しい性格リズムを作り、利用児が主体的に1日の計画で行動できるようにする。

2. 利用児の特長を引き出す計画作りと実施をする。

3. 保護者と利用児のつなぎ手となるよう支援をする。

4. 連携施設や学科とイベントなどに参加し利用児が自発的な行動ができるように支援する。

#### 3) 研修計画

外部研修：障がい児の講演会や研修参加、グレーゾーンに関する講演会参加など

内部研修：職員研修、森川先生特別講演会参加

月	行事・制作物等	活動計画作成	学園スケジュール	担当
4月	入学式・花見	5月活動計画	6日入学式	にじいろスタッフ&全教職員
5月	こどもの日、母の日	6月活動計画	18日学校説明会	にじいろスタッフ&全教職員
6月	父の日	7月活動計画	8日体験入学、22日学校説明会	にじいろスタッフ&全教職員
7月	七夕、猪苗代湖（わんぱく共催）	8月活動計画	6・20日オープンキャンパス、13日学園祭	にじいろスタッフ&全教職員
8月	映画鑑賞、消防署見学（わんぱく共催）	9月活動計画	25日オープンキャンパス	にじいろスタッフ&全教職員
9月	敬老の日、お月見	10月活動計画	7日体験入学、21日入試対策セミナー	にじいろスタッフ&全教職員
10月	ハロウィン	11月活動計画	5日学校説明会、19日入試、26日体験入学	にじいろスタッフ&全教職員
11月	収穫祭	12月活動計画	16日学校説明会、21日個別相談会	にじいろスタッフ&全教職員
12月	クリスマスパーティー、年賀状作成	1月活動計画	7日体験入学、21日入試対策セミナー	にじいろスタッフ&全教職員
1月	お正月	2月活動計画	18日学校説明会	にじいろスタッフ&全教職員
2月	豆まき	3月活動計画	15日体験入学	にじいろスタッフ&全教職員
3月	ひな祭り	4月活動計画	14日卒業式、22日オープンキャンパス	にじいろスタッフ&全教職員

#### 4) その他

#### 8. 財務の概要

別紙のとおり。

貸借対照表

令和 6年 3月31日 現在

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,535,764,815	2,547,962,898	△ 12,198,083
有形固定資産	2,514,609,597	2,527,342,166	△ 12,732,569
土地	564,669,568	564,669,568	0
建物	1,860,811,678	1,854,663,747	6,147,931
構築物	4,183,587	5,825,980	△ 1,642,393
教育研究用機器備品	13,703,108	12,848,746	854,362
その他の機器備品	20,453,077	29,531,399	△ 9,078,322
図書	42,385,050	42,339,160	45,890
車輛	8,403,529	6,628,566	1,774,963
建設仮勘定	0	10,835,000	△ 10,835,000
特定資産	0	5,989,174	△ 5,989,174
保育事業人件費積立資産	0	0	0
保育事業備品等積立資産	0	101,945	△ 101,945
保育事業修繕積立資産	0	0	0
保育事業施設設備整備積立資産	0	5,887,229	△ 5,887,229
その他の固定資産	21,155,218	14,631,558	6,523,660
電話加入権	1,137,284	1,137,284	0
ソフトウェア	1,061,134	1,379,474	△ 318,340
敷金	6,928,800	7,104,800	△ 176,000
出資金	5,010,000	5,010,000	0
長期前払費用	7,018,000	0	7,018,000
流動資産	303,937,448	278,984,435	24,953,013
現金及び預金	251,222,718	175,640,738	75,581,980
未収入金	18,065,100	74,246,407	△ 56,181,307
貯蔵品	723,213	637,601	85,612
前払費用	10,484,391	13,342,069	△ 2,857,678
立替金	386,155	695,805	△ 309,650
仮払金	23,055,871	14,421,815	8,634,056
資産の部合計	2,839,702,263	2,826,947,333	12,754,930

(単位:円)

負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債		674,538,109	210,461,720	464,076,389
	長期借入金	640,624,849	189,358,000	451,266,849
	長期未払金	25,950,360	13,997,920	11,952,440
	退職給付引当金	7,962,900	7,105,800	857,100
流動負債		717,557,790	1,169,905,565	△ 452,347,775
	短期借入金	180,023,874	554,126,615	△ 374,102,741
	未払金	86,991,154	114,871,310	△ 27,880,156
	前受金	432,804,600	494,201,900	△ 61,397,300
	預り金	17,738,162	6,705,740	11,032,422
負債の部合計		1,392,095,899	1,380,367,285	11,728,614
純資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
基本金				
	第1号基本金	3,990,528,401	3,934,102,773	56,425,628
繰越収支差額				
	翌年度繰越収支差額	△ 2,542,922,037	△ 2,487,522,725	△ 55,399,312
純資産の部合計		1,447,606,364	1,446,580,048	1,026,316
負債及び純資産の部合計		2,839,702,263	2,826,947,333	12,754,930

事業活動収支計算書

令和 5年 4月 1日から  
令和 6年 3月31日まで

(単位:円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金		( 758,140,000 )	( 746,675,000 )	( 11,465,000 )
	授業料		424,600,000	417,930,000	6,670,000
	入学金		23,600,000	23,900,000	△ 300,000
	施設設備資金		131,530,000	128,505,000	3,025,000
	実験実習料		178,410,000	176,340,000	2,070,000
	手数料		( 7,350,000 )	( 5,195,300 )	( 2,154,700 )
	入学検定料		5,000,000	3,275,000	1,725,000
	試験料		1,900,000	1,284,000	616,000
	証明手数料		450,000	636,300	△ 186,300
	寄付金		( 0 )	( 0 )	( 0 )
	特別寄付金		0	0	( 0 )
	一般寄付金		0	0	( 0 )
	経常費等補助金		( 59,657,000 )	( 71,212,540 )	( △ 11,555,540 )
	国庫補助金		0	0	0
	福島県補助金		16,800,000	15,041,000	1,759,000
	市補助金		42,857,000	439,060	42,417,940
	保育給付費収入		0	55,732,480	△ 55,732,480
	付随事業収入		( 32,428,000 )	( 31,946,012 )	( 481,988 )
	附属事業収入		32,428,000	31,946,012	481,988
	受託事業収入		0	0	0
雑収入		( 47,940,000 )	( 48,578,162 )	( △ 638,162 )	
施設設備利用料		1,000,000	0	1,000,000	
受取家賃収入		33,440,000	37,026,524	△ 3,586,524	
その他の雑収入		13,500,000	11,551,638	1,948,362	
教育活動収入計			905,515,000	903,607,014	1,907,986
教育活動支出の部	人件費		( 437,330,000 )	( 414,359,579 )	( 22,970,421 )
	教員人件費		309,500,000	256,945,180	52,554,820
	職員人件費		93,480,000	125,329,883	△ 31,849,883
	役員報酬		31,600,000	30,502,132	1,097,868
	退職給与引当金繰入額		2,750,000	857,100	1,892,900
	退職金		0	725,284	△ 725,284
	教育研究経費		( 111,100,000 )	( 116,644,104 )	( △ 5,544,104 )
	消耗品費		15,000,000	13,449,981	1,550,019
	奨学金		51,200,000	52,910,000	△ 1,710,000
	旅費交通費		2,000,000	1,953,759	46,241
	通信運搬費		300,000	97,488	202,512
	出版物費		1,000,000	1,233,823	△ 233,823
	賃借料		1,200,000	1,200,000	0
	福利費		3,300,000	3,577,453	△ 277,453
	渉外費		100,000	49,463	50,537
	報酬委託手数料		2,000,000	4,481,840	△ 2,481,840
	研究費		1,000,000	788,620	211,380
	行事費		3,200,000	3,192,801	7,199
	教材費		6,500,000	7,008,274	△ 508,274
	諸会費		700,000	1,270,380	△ 570,380
実習費		18,000,000	21,861,554	△ 3,861,554	
修繕費		0	6,600	△ 6,600	
減価償却費		5,500,000	3,544,738	1,955,262	
雑費		100,000	17,330	82,670	
管理経費		( 342,940,000 )	( 329,137,833 )	( 13,802,167 )	
消耗品費		13,340,000	14,211,145	△ 871,145	
水道光熱費		22,400,000	24,772,278	△ 2,372,278	
旅費交通費		19,100,000	10,519,626	8,580,374	

の部	車輜燃料費	3,500,000	4,280,136	△ 780,136	
	福利費	9,000,000	4,620,282	4,379,718	
	通信運搬費	4,600,000	4,387,379	212,621	
	保険料	2,950,000	9,445,412	△ 6,495,412	
	公租公課	1,800,000	2,056,232	△ 256,232	
	広報費	32,300,000	31,338,747	961,253	
	諸会費	1,500,000	1,296,110	203,890	
	渉外費	25,110,000	47,121,212	△ 22,011,212	
	リース料	1,600,000	1,064,642	535,358	
	保守管理費	28,600,000	21,543,015	7,056,985	
	修繕費	40,500,000	5,059,165	35,440,835	
	報酬委託手数料	33,100,000	40,866,049	△ 7,766,049	
	賃借料	41,960,000	41,430,040	529,960	
	出版物費	430,000	442,027	△ 12,027	
	減価償却費	60,000,000	61,906,319	△ 1,906,319	
	受託事業支出	0	0	0	
	雑費	1,150,000	2,778,017	△ 1,628,017	
	徴収不能額等	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	徴収不能引当金繰入額	0	0	0	
	徴収不能額	0	0	0	
教育活動支出計	891,370,000	860,141,516	31,228,484		
教育活動収支差額	14,145,000	43,465,498	△ 29,320,498		
教育活動外収入	事業活動収入の部	科目	予 算	決 算	差 異
	受取利息・配当金	( 50,000 )	( 295,293 )	( △ 245,293 )	
	その他受取利息・配当金	50,000	295,293	△ 245,293	
	その他の教育活動外収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	教育活動外収入計	50,000	295,293	△ 245,293	
	事業活動支出の部	科目	予 算	決 算	差 異
	借入金等利息	( 12,800,000 )	( 12,721,600 )	( 78,400 )	
	借入金利息	12,800,000	12,721,600	78,400	
	その他の教育活動外支出	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	教育活動外支出計	12,800,000	12,721,600	78,400	
教育活動外収支差額	△ 12,750,000	△ 12,426,307	△ 323,693		
経常収支差額	1,395,000	31,039,191	△ 29,644,191		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	( 0 )	( 0 )	( 0 )
	施設売却差額	0	0	0	
	設備売却差額	0	0	0	
	投資有価証券売却差額	0	0	0	
	その他特別収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
	受取損害賠償金	0	0	0	
	特別収入計	0	0	0	
	事業活動支出の部	資産処分差額	( 0 )	( 2,689,948 )	( △ 2,689,948 )
	施設処分差額	0	0	0	
	設備処分差額	0	2,689,948	△ 2,689,948	
その他特別支出	( 0 )	( 27,322,927 )	( △ 27,322,927 )		
補助金返還損失	0	27,322,927	△ 27,322,927		
特別支出計	0	30,012,875	△ 30,012,875		
特別収支差額	0	△ 30,012,875	30,012,875		
基本金組入前当年度収支差額	1,395,000	1,026,316	368,684		
基本金組入額	△ 5,000,000	△ 56,425,628	51,425,628		
当年度収支差額	△ 3,605,000	△ 55,399,312	51,794,312		
前年度繰越収支差額	△ 2,500,000,000	△ 2,487,522,725	△ 12,477,275		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△ 2,503,605,000	△ 2,542,922,037	39,317,037		

(参考)

事業活動収入計	905,565,000	903,902,307	1,662,693
事業活動支出計	904,170,000	902,875,991	1,294,009

## 財 産 目 録

令和6年 3月31日現在

I 資産総額		2,839,702,263円
1 基本財産		2,514,609,597円
2 運用財産		325,092,666円
II 負債総額		1,392,095,899円
III 正味財産		1,447,606,364円
一 資産額		
(1)基本財産		
1 土地	校舎敷地	564,669,568円
2 建物	校舎	1,860,811,678円
3 構築物		4,183,587円
4 教育研究用機器備品		13,703,108円
5 その他の機器備品		20,453,077円
6 図書		42,385,050円
7 車輛		8,403,529円
	小計	2,514,609,597円
(2) 運用財産		
1 電話加入権		1,137,284円
2 ソフトウエア		1,061,134円
2 敷金		6,928,800円
3 出資金		5,010,000円
4 長期前払費用		7,018,000円
5 預金、現金		251,222,718円
現金		3,926,465円
普通・当座預金		194,286,817円
定期預金・通知預金		53,009,436円
6 未収入金		18,065,100円
7 貯蔵品		723,213円
8 前払費用		10,484,391円
9 立替金		386,155円
10 仮払金		23,055,871円
	小計	325,092,666円
資産総額		2,839,702,263円
二 負債額		
(1)固定負債		
1 長期借入金		640,624,849円
2 長期未払金		25,950,360円
3 退職給与引当金		7,962,900円
	小計	674,538,109円
(2) 流動負債		
1 短期借入金		180,023,874円
2 未払金		86,991,154円
3 前受金		432,804,600円
学納金前受金		432,804,600円
その他前受金		0円
4 預り金		17,738,162円
	小計	717,557,790円
負債総額		1,392,095,899円

## 監査報告書

学校法人 こおりやま東都学園  
理事会 御中

令和 6年 5月28日

監 事 及本 隆 

監 事 谷口 英太郎 

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づき、学校法人こおりやま東都学園の令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)の業務並びに財産の状況について監査した。

私たちは監査に当たり、理事会その他の重要な会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するほか、私たちが必要と認めた監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人こおりやま東都学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類、すなわち、資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む)並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務または財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上